

●憲法と「建国記念の日」を考える集会(2/11)



2月11日に平和フォーラム主催で、「安倍政権の暴走とナショナリズム」をテーマとして「建国記念の日」を考える集会在日本教育会館にて開催されました。

まず、中西新太郎さん(横浜市立大学名誉教授)が「若者とナショナリズム―『無邪気』な国家主義の真

相」と題して講演を行いました。日本社会の右傾化をどうみるか、若者が惹かれる国家主義の特徴とは? 若い世代の生きづらいつらいつら現実の側から歴史的現実接近するために必要なことは何かについて考察しました。次に、相可代さん(子どもたちに渡すな!あぶない教科書大阪の会)が『戦争をする国』の「戦争で



●日教組インクルーシブ教育討論集会(3/1)

全国から各単組の担当者が集まり、現状と課題について報告を受けました。インクルーシブ教育の実現に向けて、法整備がすすんでいます。

- ① 国連障害者権利条約批准
 - ② 障害者基本法改正
 - ③ 学校教育法施行令改正
 - ④ 障害者差別解消法成立
- 内閣府障害者制度改革担当 当室で勤務していた南館こ

すえさんの講演があり、「合理的配慮って何をすればいいの?」という投げかけがありました。参加者がそれぞれ意味を考えて発表し、その後、合理的配慮の事例報告と質疑が行われました。障害者権利条約では、「合理的配慮とは、障害者が他の者との平等を基礎として全ての人権及び基本的自由を享有し、又は行使することを確保するための必要かつ



●神奈川の教科書採択問題を考える(2/25)



●教育を語る県民のつどい(2/28)

2月23日に連合神奈川主催で、「教育を語る県民のつどい」がワークビア横浜で開催されました。馬咲子さん(跡見学園女子大学准教授)が「子ども

の貧困と雇用問題」というテーマで、増加する就学援助、義務教育を受けるための費用、給食問題の重要性などについて講演を行いました。高卒の就職状況の変化、生活保護世帯の大学進学困難性、奨学金の問題などの訴えに、各単組の出席者からは大きな反響がありました。

2月25日に「神奈川の教科書採択問題」とりくむ会主催で、「教科書採択問題を考えるつどい」が横浜市社会福祉センターで開催されました。まず、弁護士の穂積匡史さんが、「安倍政権下の教科書問題」について、同調圧力に対抗するためには、たった一人でもいいから声を上げることが大事である」と提起しました。続けて上杉聰さん(大阪市立大学人権問題研究センター)が、「お国のために命を捧げさせるあぶない教科書はいらない!」と題して講演を行いました。育鵬社と他社版を比較しつつ、日本国憲法の制定過程を検証し、憲法9条の解釈について提言を行いました。